

## 本時のねらい

- ・ 前時に学習した文法事項の復習として、本文の音読練習を行い、英語特有のリズムについての理解を深める。

## 本時における 1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・ 1人1台端末に録音した自分の音読を客観的に聴くことで、自身の音読を振り返り改善することができる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ 学習者用デジタル教科書（開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1」）
- ・ Microsoft Teams
- ・ Microsoft Forms
- ・ 指導者用デジタル教科書（開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1」）
- ・ 大型モニタ
- ・ SKYMENU Cloud

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 帯学習 1 : 新出単語練習 (20 個)</li> <li>○ 帯学習 2 : 単元単語テスト (20 問)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自が習熟度に応じて選択できるよう、3 種類のワークシートを Teams で配付する。</li> <li>○ Forms のクイズ機能で作成した選択型や記述型の単語問題に取り組む。</li> </ul>
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のめあてを示す「英文のリズムを意識して読めるようになる」</li> <li>○ PROGRAM7 の Think 本文を、デジタル教科書を使い全体でシャドーイング練習する。【写真 1】</li> <li>○ 各自で教科書本文を音読しながら、Teams の課題機能を使って 1 人 1 台端末に音声を録音する。【写真 2】</li> <li>○ 録音した音声を再生し、デジタル教科書の読み上げ音声と聴き比べ、振り返りシートに改善点を記入する。</li> <li>○ 班活動で、自身の音読が英語の自然なリズムに聴こえる工夫や発音しづらい単語等を確認し、デジタル教科書の読み上げ音声に近づけるための改善点を考える。【写真 3】</li> <li>○ 再度、各自で教科書本文の音読を 1 人 1 台端末に録音する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタル教科書を大型モニタに投影し、表示されている本文が読み上げと同時に消えていく機能を使いシャドーイング練習を行う。</li> <li>○ デジタル教科書の読み上げ機能を活用して、分からない単語の読み方や読み上げのリズムを確認するよう指導する。</li> <li>○ 録音した自分の音声は、気になる箇所を重点的に再生して聴くように指導する。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2 回目に録音した音声を聴き、班活動での交流で得られた気づきや自分で考えた改善点が反映されているかなどを振り返りシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 録音した音読を再生して聴くことで、自分の工夫した箇所や読めるようになった単語を確認することができる。</li> </ul>

## 1人1台端末を活用した活動の様子



【写真 1】大型モニタのデジタル教科書の本文を見ながらシャドーイング練習する様子



【写真 2】ヘッドセットを使い、音読した音声を端末に録音している様子



【写真 3】班活動で自然なリズムに聴こえる音読の工夫を交流している様子

## 児童生徒の反応や変容

- ・ リーディングを録音して後で聴き返すことができたので、発音しづらい単語や読み上げのリズムを確認しやすく、工夫や改善点を考えるのに役立った。
- ・ 生徒はネイティブな発音に近づけるように、主体的に練習に取り組む様子が見られた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・ 1人1台端末に録音することで、客観的に自分の音読を確認できるようになったことは大変効果的である。また、録音した音声は繰り返し聴くことも可能なので、各自のペースで取り組む姿をみることができた。
- ・ 従来の授業では授業者が生徒一人一人のリーディングの音声を効率的に聴き取ることは難しかったが、1人1台端末を活用することで、デジタルデータで生徒の音声を蓄積でき、効率よく把握することができるようになった。